



シイタケ原木栽培で 夏の温度管理は重要です

生産が低下し
ないか心配

将来暑くなっ
ても大丈夫？



シイタケ菌は 25℃で最も旺盛に成長し、それ以上の温度になると急激に弱まるため、高温はストレスとなります。静岡県の夏の気温は 30℃を超える日が 50 日もあり、シイタケ生産現場への影響が心配されています。

そこで、森林・林業研究センターでは、原木栽培でほだ木がどれくらいの温度になっているか、発生量に影響するか調査を行いました。

高温ストレス区(日光)



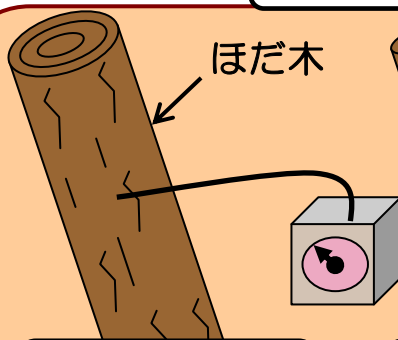
通常区(林内)



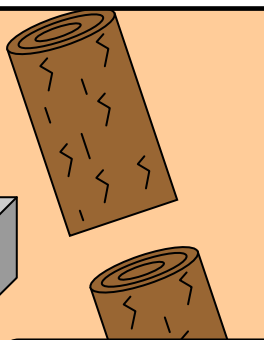
通常区(人工ほだ場)



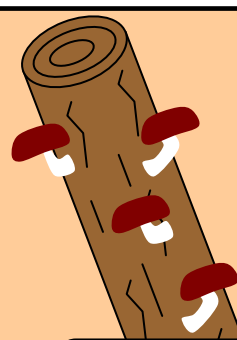
3つの場所で試験を行いました。



ほだ木の内部
温度を計測



シイタケ菌の
まん延を計測

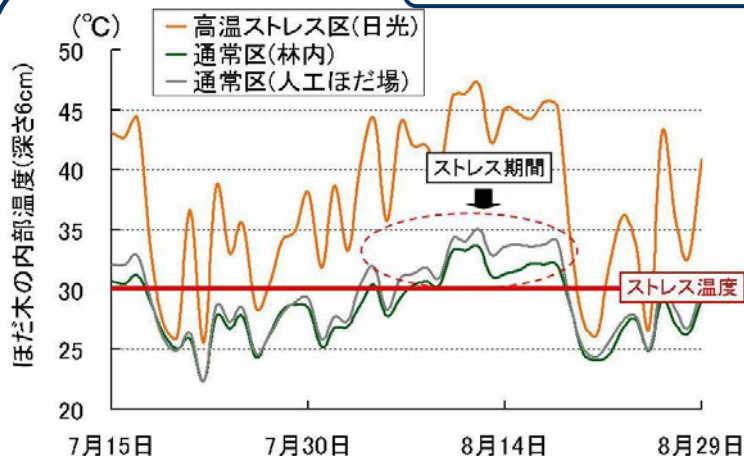


シイタケの発
生量を計測

裏面には、
詳しい試験説
明があります。



実際のほだ木の温度は？



林内や人工ほだ場に置かれているほだ木も 30℃を超える日が 2 週間続きました。

日光の当たる場所に置かれたほだ木は最高で 45℃以上になりました。

図 1 夏のほだ木内部温度の推移

高温の影響は？

シイタケ菌が高温ストレスを受けると、菌が成長しません。

シイタケ菌が十分に成長しないので発生量が低下します。

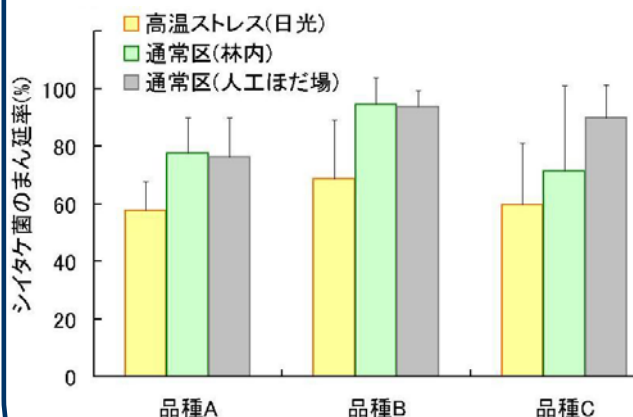


図 2 ほだ木のシイタケ菌のまん延率

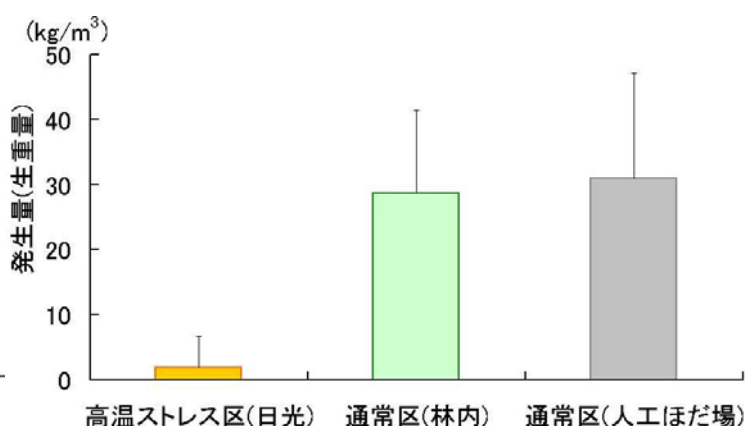


図 3 シイタケの発生量

ほだ木が高温になるとシイタケ菌のまん延が阻害され、発生量が低下します。林内や人工ほだ場でも高温ストレスを受けることが考えられます。

温暖化による暑い夏が予想され、ほだ木の温度上昇に注意が必要です。多めの散水や強めの遮光などで夏のほだ木温度を調整しましょう。

